

令和8年3月12日(木曜日)

予算決算委員会文教・子育て分科会

第2委員会室

出席委員

常盤真功、妻鹿幸二、宮下和也、阿山正人、  
宮本吉秀、東影 昭、下林崇史、牧野圭輔、  
谷川真由美

再開

9時57分

教育委員会

9時57分

送付議案説明

- ・議案第1号 令和8年度姫路市一般会計予算
- ・議案第13号 令和7年度姫路市一般会計補正予算  
(第8回)

質疑

10時09分

(質問)

令和8年度の新規事業について、通学の安全確保で計上されているスクールバスは、何台で、どの学校に配置されるのか。

(答弁)

令和9年4月に統合を予定している学校に配置する予定である。台数については、予定価格が類推されるため回答を控える。

(質問)

姫カツの会費はどのように徴収するのか。

(答弁)

アプリを利用し、保護者から姫カツ事務局が一括で徴収する予定である。

(質問)

姫カツの平日夜間活動に向けて、屋外活動のための夜間照明の整備はどのように考えているのか。

(答弁)

平日の活動展開に向けて、屋外活動の場をどうするかは今後検討していきたい。

(質問)

全小中学校に配置される不登校児童生徒支援員について、資格要件や勤務時間を教えてもらいたい。

(答弁)

特別な資格は不要で、勤務時間は1日4時間である。

(質問)

心の健康観察のモデル実施において、SOSを早期に発見し、子どものケアにつながった具体的な事例が

あれば教えてもらいたい。

(答弁)

外見では分からない内面的な不調を把握できたり、言葉で表現することが難しい子どもがSOSを出すことで早期対応につながったりした、という報告を教員から受けている。

(質問)

学び舎ひとつプロジェクトの合同交流行事について、具体的な学校名と活動内容を教えてもらいたい。

(答弁)

谷内・谷外、上管・菅生、置塩・古知の各小学校間で、自然学校の合同準備や、農業振興センターでの芋掘り体験などを想定している。

(質問)

不登校児童生徒支援員の勤務時間が1日4時間とのことだが、多くは午前中の勤務になるのか。

(答弁)

勤務時間は学校と支援員の間で決めるが、朝から昼過ぎまでの勤務を設定する学校が多いと思われる。

(質問)

不登校の生徒の中には午後から登校するケースもあるが、支援員が午前勤務の場合、どのように対応するのか。

(答弁)

現状では、支援員の勤務時間外は学校の教員が対応している。

(質問)

中学校給食費について、1食あたり55円の値上げのうち、市の負担軽減は30円で、実質25円の保護者負担増となる。他市のように無償化や、せめて値上げ分の全額を市で負担しようという考えはなかったのか。

(答弁)

物価高騰対策の交付金は市全体の様々な施策で活用しており、その中での調整の結果、給食費への充当は30円となった。

(質問)

教育委員会として、値上げ分の全額負担を財政当局に予算要求したのか。

(答弁)

保護者負担をできるだけ抑えたいという思いで予

算要求はしたが、財政との調整の結果、30 円の支援となった。

(意見)

値上げ分を補う約 1 億円の財源は確保できたはずであり、子育て支援の観点から非常に疑問である。

(質問)

体育館昇降機整備が、新年度は荒川小学校のみとなっているのはなぜなのか。

(答弁)

荒川小学校体育館の既存エレベーターが老朽化しているため、その更新費用である。

(質問)

新設される(仮称)荒川南小学校には、エレベーターは設置されるのか。

(答弁)

設置予定である。

(質問)

増位小学校の土砂災害対策整備事業とは具体的にどのようなものか。

また、この整備によって、土砂災害警報発令時でも体育館への避難は可能になるのか。(答弁)

校舎裏のレッドゾーンに擁壁を整備し、校舎への土砂流入を防ぐ工事である。擁壁が完成すれば、体育館への避難は可能になると考える。

(質問)

学校プールの廃止や整備は、どのような基準で判断しているのか。

(答弁)

築年数や老朽化の度合い、周辺の代替施設の状況などを考慮して計画を立てている。

(質問)

増位小学校の土砂災害対策工事後、土砂災害警報発令時でも体育館が避難所として使えるようになるという理解でよいか。

(答弁)

工事によって校舎への土砂流入は防げるが、避難所としての指定は危機管理室の判断となる。

(質問)

スクールバスや姫カツの送迎バスについて、安全確保のため、運転手以外に同行者を乗せることは検討しているのか。

(答弁)

現状では運転手のみでの対応を考えているが、委託する事業の仕様書の中で検討すべき課題と認識している。

(要望)

全国的に運転手の急な体調不良が問題となっているため、安全向上のために同行者を配置されたい。

(質問)

姫カツの活動拠点となる中学校での休日のセキュリティ対策とは、具体的にどのようなものか。

(答弁)

部活動で校舎内施設を使用する際、通常は学校全体に設定しているセキュリティを、生徒が通る動線部分のみ一時的に解除するなどの機械的な対策を行うための費用である。

(質問)

スクールバスはリースではなく購入とのことであるが、購入のほうがメリットがあると判断したのか。

(答弁)

購入であれば、将来的な児童数の増減に応じて車両を他の学校へ転用するなど、市として柔軟な運用が可能であるため、購入と判断した。

(質問)

過去に夢前地域で導入したスクールバスも購入だったのか。

(答弁)

そうである。

(質問)

その際の運行は、運転手と車両管理をセットで委託していたのか。

(答弁)

そうである。

(質問)

姫カツコンソーシアムの構成団体はどのようなものか。

(答弁)

中学校長会、中体連、スポーツ協会、PTA、スポーツ 21、トップリーグ等のこれまでの姫カツ推進協議会のメンバーが主体となる。

(質問)

教育委員会はコンソーシアムに直接関与するのか。

(答弁)

教育委員会もコンソーシアムの一員として、これまでどおり運営に携わっていく。企業の賛助会員も募集する予定である。

(質問)

姫カツにおける中山間地域での送迎バス運行とは、具体的にどのような取組なのか。

(答弁)

過去2年間、菅野・鹿谷・置塩中学校の生徒を1か所の活動拠点にバスで集める実証事業を行ってきた。その検証を踏まえ、今後の展開を考えていく。

(質問)

この送迎は、中山間地域に限定されるのか。遠方の活動拠点に通う生徒もカバーしないと不公平感が生じるのではないか。

(答弁)

まずは、校区間の距離が広い地域の生徒の負担軽減を考えているが、指摘のとおり検討の余地はあるため、今後十分に考えていきたい。

(要望)

不公平感が生じないように、対象地域の限定についてはよく検討してもらいたい。

(質問)

姫カツの困窮世帯への参加費助成は、無償だった部活動が有料になることに対応するための、新たな支援と思うが、これまでも困窮世帯への支援は何かあったのか。

(答弁)

これまで部活動に対する困窮世帯への直接的な支援はなかった。

(質問)

助成に当たり、単に籍を置くだけの幽霊部員ではないかなど、活動実態の確認は行うのか。

(答弁)

会費への補助が主となるため、一定の申請に基づいて支給することを想定しているが、定期的な活動確認は難しい面もある。具体的な方法は今後検討する。

(質問)

姫カツクラブへの初期費用助成は、クラブの規模等にかかわらず、一律で上限4万円が支給されるのか。

(答弁)

保護者負担の代替となるような費用に使ってもらいたいと考えている。一律支給とするか、金額に差をつけるかについては現在検討中である。

(質問)

姫カツ指導者へのハラスメント防止研修は、年に1回受講を義務づけるようなルールになるのか。

(答弁)

そのように考えている。必ず研修を受けてもらい、その確認もきっちり行いたい。

(質問)

白鷺中学校と城山中学校の武道場保全改修は、計画的に行われているものか。

(答弁)

武道場の改修は一時中断していたが、老朽化が進行する中で、今回は校舎改修に合わせて整備するものである。

(質問)

校舎改修に合わせて整備するとのことだが、今後の武道場の在り方を検討する流れの中でも、この2校は無条件で改修されるという理解でよいか。

(答弁)

武道が必修化されている現状も踏まえ、整備を進めたい。

(質問)

四郷学院前期課程の屋内運動場改築設計について、どのような改築になるのか。

(答弁)

現在の体育館が老朽化しているため、旧幼稚園跡地に移転・建て替えを計画している。

(質問)

新体育館の規模は現在より大きくなるのか。

(答弁)

今後は後期課程の生徒も集約し、一体的に運営する計画があるため、全校集会等での使用を考えると、現在より若干大きくする必要があると考えている。具体的な規模は今後の設計の中で検討する。

(質問)

今回の規模拡大が、今後の施設更新における1つの基準となるという理解でよいか。

(答弁)

文部科学省の補助基準はあるが、市の明確な基準は

ない。クラブハウスの併設など、実際の使用方法も考慮する必要があり、今回の事例が今後の基準になり得ると思うが、適正な規模については今後の検討の余地が十分ある。

(質問)

前期課程の体育館を大きくする一方で、後期課程の体育館はどうなるのか。存続させるのであれば、前期課程の体育館を大きくする必要はないのではないか。

(答弁)

後期課程の校舎や体育館の跡地利用についてはまだ議論が進んでおらず、判断が難しい状況である。

(質問)

繰り越された高等学校用地の取得費は、交渉中だった最後の地権者 1 名への支払い費用という理解でよいか。

(答弁)

当該地権者との契約は合意に至り、現在、所有権移転登記を申請中である。年度内に手続きが完了しない場合に備え、支払いのために繰越予算を計上した。

(質問)

新設高等学校の整備計画について、昨年の答弁では令和 7 年度に基本計画策定だったが、今回は令和 8 年度に基本構想・基本計画策定と変更されている。

変更の理由と計画策定の経費はいくらか。

(答弁)

策定経費は高等学校費の校舎整備事業費に含まれている。計画については、内容が変わったというより、学校の中身の精査や、まちづくりの観点からの周辺整備など、庁内協議を重ねる中で熟度が増してきたと捉えている。

(質問)

計画の進め方が変わったのであれば、もっと早く委員会で説明すべきではないのか。

(答弁)

状況の変化が下半期に集中したため説明が遅れた。今後はきちんと説明するよう努める。

(質問)

なぜ当初の計画に基本構想という言葉がなかったのか。

(答弁)

小中学校の施設内容はある程度基準が定まってい

るため、基本計画で進めることが多いが、高校については、施設のコンセプト等を固めるため基本構想を策定する方がよいという結論に庁内協議に至った。

(質問)

市長が本会議で「学校食堂を市民に開放する」といった趣旨の発言をしたが、まだ基本構想もできていない段階での発言は、計画に影響を与えるのではないか。

(答弁)

市長の答弁内容は教育委員会も確認しており、承知している。学校機能の向上を基本としつつ、市民利用によって相乗効果が生まれるような形を計画の中で整理していきたい。

(質問)

新設される(仮称)荒川南小学校にプールが計画されていないのは、当初から外部施設を利用する方針だからか。

(答弁)

そうである。

(仮称)荒川南小学校にプールは建設せず、児童は近隣の施設を利用することになる。

(質問)

八幡幼稚園の耐震改修について、改修だけで十分なのか。

(答弁)

幼稚園の統廃合計画はあるものの、現在も使用している園については耐震化を進めるべきと考え、今回、園舎部分の改修を行うものである。

(質問)

小学校給食室の空調設備整備について、令和 8 年度から 11 年度で 22 校とあるが、令和 8 年度に 22 校全てを整備するのか。

(答弁)

令和 11 年度までの複数年で整備する計画である。令和 8 年度は事業者の選定を行い、令和 9 年の夏頃から一部の学校で使用できればと考えている。

(要望)

給食室の労働環境は苛酷であるため、1 日も早い整備をお願いしたい。

(質問)

城西小学校と城乾小学校のプールが解体されるが、それぞれどの施設を共同利用しているのか。

(答弁)

城西小学校は近隣の民間スイミングスクール、城乾小学校は隣接する城乾中学校のプールを利用している。

(質問)

使われなくなったプールは、毎年度計画的に解体していくのか。

(答弁)

まだ具体的な解体順序までは決まっていない。今回は、既に自校プールを使用していない2校の解体費用を計上した。

(要望)

プールの共同化や民間活用を進めるのであれば、市全体の計画を早期に策定し、示すべきである。学校によって教員の負担に大きな差が出ている現状を改善するためにも、負担軽減に向けた取組を早急に進めてほしい。

(質問)

新しい高校の図書館について、市民や他校の生徒も利用できる自習室のような機能を整備する考えはあるか。

(答弁)

そのような子どもたちの居場所づくりができればよいと考えている。しかしながら、まずは高校としての基本機能をしっかりと計画に盛り込むことが前提であり、その上で、施設コンセプトと連動し相乗効果が生まれるような形を検討していきたい。

(要望)

セキュリティ等の課題はあると思うが、自習室などの機能について検討をしてもらいたい。

**教育委員会終了**

**11時26分**

【文教・子育て委員会（教育委員会）の審査及び意見取りまとめ】

**意見取りまとめ**

**15時00分**

・分科会長報告について

正副分科会長に一任すべきものと決定。

**意見取りまとめ終了**

**15時01分**

**閉会**

**15時01分**